

フレームワーク	JavaServerFaces
導入方法	<p>NetBeansの場合</p> <ul style="list-style-type: none">・「新規プロジェクト」より「Java Web」 → 「Webアプリケーション」・「フレームワーク」より「JavaServer Faces」にチェック・完成後、実行するFaceletsのファイルを実行
特徴	<ul style="list-style-type: none">・HTMLタグと同様のタグが多数用意されている。・タグを使って簡単にフォーム入力欄が作れる(UIコンポーネント)・入力値が適正な範囲かどうかなどチェックが簡単にできる(バリデーション機能)・入力値の型変換が簡単にできる(コンバータ機能)・入力値をプログラミング無しにJavaBeansに格納できる(バインディング機能)・ページ移動を簡単に設定できる(ナビゲーション機能)

フレームワーク	Play Framework
導入方法	<ul style="list-style-type: none">・まず、jdkをインストール後 Path %JAVA_HOME%\bin\;を追加。・Play Frameworkの公式ページから typesafe-activator をダウンロード。・Path D:\play\activator-1.3.7-minimal; を追加。・コマンドプロンプトから activator.bat に移動後、activator help を実行。・新規プロジェクトを作成する。
特徴	<ul style="list-style-type: none">・MVCモデルを採用している。・開発がしやすく、メンテナンス性が高い。・フレームワークの中でも特にシンプル。

フレームワーク	Spring Framework
導入方法	<p>NetBeansの場合</p> <ul style="list-style-type: none">・「新規プロジェクト」より「Java Web」 → 「Webアプリケーション」。・「フレームワーク」より「Spring Web MVC」にチェック。・プロジェクト完成。
特徴	<ul style="list-style-type: none">・MVCモデルを採用している。・開発がしやすく、メンテナンス性が高い。・フレームワークの中でも特にシンプル。